

茨城県笠間市

石井台遺跡発掘調査報告書

(笠間焼販売センターかまげん建設地)

笠間市教育委員会

序

本市は古く万葉の頃から史実にのぼり、常陸風土記に述べられる由緒ある都市であります。

残された史跡と建造物には今后共永く保存し後世に伝えねばならないものが数多くあります。

昭和47年には国道50号バイパス建設に伴ない、うら山古墳、石井台遺跡の発掘調査が行われ貴重な遺跡、遺物が発掘されたことは周知のとおりですが、このたび、かまげん（笠間焼販売センター）の建設にあたり、その敷地内に石井台遺跡が含まれていたため、発掘調査が行われ貴重な遺跡遺物が発掘されました。

ここに集落跡の歴史的意義の一端が解明され発掘調査報告書の刊行を見たことはまことに喜びに堪えないところであります。本書によって先人の生活様式とともに、その叡知を知り、笠間市発展の資として活用されるならば幸に存じます。

終りに調査全般から報告書の刊行に至るまで萩原義照先生をはじめご尽力くださいました関係者に心から感謝申し上げる次第であります。

昭和59年11月

笠間市教育委員会

教育長　宇　田　　茂

目 次

| | |
|----------------------|-------|
| 1. 発掘現場付近航空写真..... | 3 |
| 2. 調査に至る経過..... | 4・5 |
| 3. 石井台遺跡をとりまく環境..... | 5・6 |
| 4. 発掘調査経過..... | 6・7 |
| 5. 調査の成果 | |
| (1) 1号住居跡と出土遺物..... | 8～9 |
| (2) 2号住居跡と出土遺物..... | 10～11 |
| (3) 3号住居跡と出土遺物..... | 11～12 |
| 6. 出土遺物実測図と写真..... | 13～15 |
| 7. おわりに | |

真 写 空 航 場 現 場 発



1. 調査に至る経過

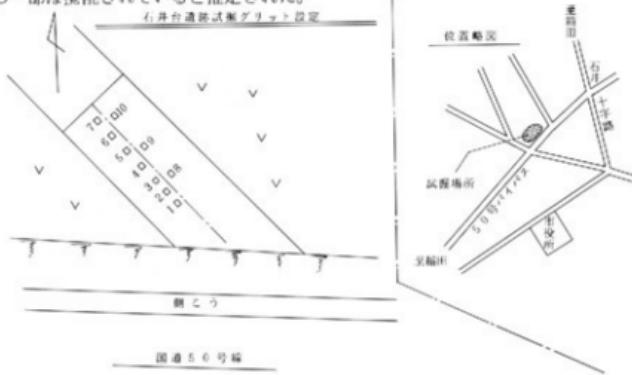
株式会社「かまげん」は、笠間市石井字新地台1.750～1番地外5筆地内に、笠間焼販売センターを建設するため、市都市計画課に建築申請があった。

市教育委員会は、この周辺に石井台遺跡が所在することから建設に先立ち、遺跡の確認を実施することになった。

水戸教育事務所青木社会教

育主事と伊東埋蔵文化財指導員の指導のもとに、分布調査の結果笠間焼販売センターの建設地内は、遺跡の範囲内と推定されるが、遺跡に及ぼす影響はないとの判断された。しかし、この台地へあがる国道50号バイパス線からの取付私道が、国道より緩やかな傾斜とするために、国道より1.5mから2.5mに涉って最大2m最少50cmの深さに除土削平する計画であるので、取付私道の部分については遺構の有無を試掘によって確認する必要があると判断した。そこで約200m²に1.5m×1.5mのグリット10ヶ所を設定して試掘した。

その結果試掘No.10.6.5に現地表下70cmほどに焼土及び繩文、土師器、須恵器が検出され、遺構の一部は搅乱されていると推定された。



図版 50 号線

その後、事業者と遺跡保存のため削平しないで現地替確保による工法を検討したが、一部国道部分を借地する関係から、建設省は急勾配の取付け道は認められない旨の回答があったため、削平せざるをえずしたがって遺構の破壊は避けられることとなり、ここに記録保存の処置をとることになった。

2. 石井台遺跡をとりまく環境

(1) 笠間盆地と石井台遺跡

石井台遺跡は、八溝山の支脈越足山塊の南端にあたる笠間盆地の中央台地に位置し、岩瀬盆地などが隣接して存在している。



石井台遺跡位置図

盆地地形を形づくっている山波としては、南に上加賀田の真名岳（382.2m）から、吾国山（518m）によって岩間町、八郷町と境している。西方へ棟峯（263.7m）、穂柄山（274.5m）と続いて岩瀬町と限り、北には仏頂山（430m）から国見山（392m）へ、そして東に朝房山（201m）の山群が連っている。

盆地内の低地は、湖沼へ流出する潤沼川の水源地域として土地も潤いをみせ、古くから地域の人々の生活に適した環境を創り出している。

このような地形を呈する笠間盆地を含む笠間市の歴史は古く、常陸風土記、延喜式などにもその記録を見ることができる。

(2) 周辺遺跡と石井台遺跡

石井台遺跡は、栃木県境仏頂山の東南麓から片庭川に沿って、市内中央に伸びた箱田丘陵の舌状地に位置する。その範囲は笠間市大字石井字新地台、同新地前及び宮廻りと推定され縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器等の破片が表採される。

遺跡の一部は、昭和46年7月国道バイパス建設に伴い国士館大学の大川清教授によって、道路敷約1,500mを対象に調査した結果平安時代の集落跡として発表された。（石井台遺跡調査報告書）

3. 調 査

7月5日(木) 晴

表土層排除作業、遺構確認面までの表土層は60～70cmをはかることができ、また調査期間は5日間を予定して短期間にため重機により最大限の注意をはらって作業を進めた。

午後3時頃雷雨。作業中止。

7月6日(金) 曇

作業開始、調査区約10m×20m南東から北西にかけて、約200m²に8グリットを設定し各グリットの除土作業を行う。No.1.3.4グリットより黒色の落ちこみ、粘土塊及び縄文土器片出土。

7月7日(土) 小雨及曇

各グリットの堀り込みを進め、前日検出された粘土と焼土はカマド跡であることが確認された。また住居跡の重複部分の床面は堅く貼られてある。

カマドの袖部や床面から土師器、須恵器の杯や盤、蓋、甕の破片の出土をみた。

桑の古木根及び耕作等によって、遺構の搅乱がはげしく住居跡の立ち上りが不明確。



発掘風景



発掘風景

7月8日(日) 雨

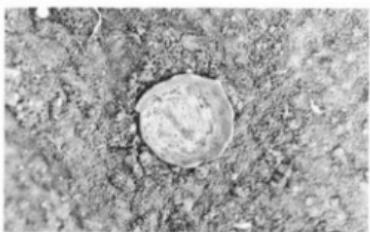
セクションベルトを調査地の
ほぼ東西に1本、南北に1本を
設定1号住居跡の南側、2号住
居跡に重複した床面にピット2
基検出。No.4・6グリットの北側
に白色粘土塊検出。カマド跡と
推定されるが焼土は検出されな
かった。床面の一部は堅く貼ら
れてある。粘土中に不明鉄製器
出土。



7月9日(月) 曇

発掘風景

平板測量及びセクション図作成。ピットエレベーション図作成。各遺構精査、写真撮影、調
査完了。



土器出土状況

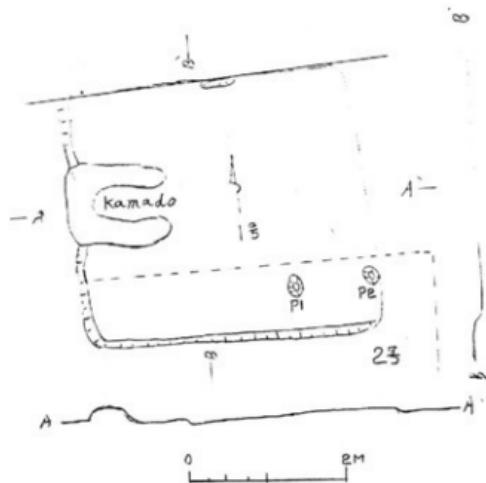
4. 調査の成果

(1) 1号住居跡と出土遺物

イ 住居跡

この住居跡は東に面して2号住居跡のうえにつくられたもので、西壁3m南壁3.7mの略方形の堅穴住居跡である。東壁は破壊されて不明。側壁については壁の立ちあがりが低く、また周溝についても確認できなかった。床面はローム層が堅くほぼ平である。2号住居跡との重複部分が貼床となっている。柱穴らしき穴2個が、2号住居跡との重複部分南東限に認められたが、どちらの住居跡のものか判断しがたいが、多分1号住居跡の柱穴と思われる。カマドは西壁中央にあり黄色白色砂質粘土で構築されていた。火床は一面によく焼けており赤色を呈している。煙道は確認できなかった。

1号住居跡実測図



口 遺 物

| No. | 器形 | 種別 | 色調 | | 特 色・そ の 他 |
|-----|----|----|------|------|-----------------|
| | | | 内側 | 外側 | |
| 1 | 坏 | H | 黒 色 | 茶褐 色 | 口辺、体部ロクロ、他欠 |
| 2 | 坏 | H | 茶褐 色 | 茶褐 色 | 底部のみ、他欠 |
| 3 | 坏 | H | 灰暗褐色 | 灰暗褐色 | 高杯底部のみ、他欠 |
| 4 | 坏 | H | 黑暗褐色 | 茶褐 色 | 体部のみ、他欠 |
| 5 | 坏 | H | 黒 色 | 茶褐 色 | 底部ロクロ、他欠 |
| 6 | 坏 | S | 灰 色 | 灰 色 | 口辺、体部ロクロ、他欠 |
| 7 | 坏 | S | 灰 色 | 灰 色 | 口辺ロクロ、他欠 |
| 8 | 盤 | S | 灰 色 | 灰 色 | 口辺ロクロ、付高台、他欠 |
| 9 | 甕 | H | 赤褐 色 | 橙 色 | 体部のみ、他欠 |
| 10 | 甕 | H | 褐 色 | 褐 色 | 体部のみ、他欠 |
| 11 | 甕 | H | 赤褐 色 | 赤褐 色 | 口辺のみ、ロクロ、他欠 |
| 12 | 蓋 | H | 赤褐 色 | 明灰 色 | 口辺、体部ロクロ、他欠 |
| 13 | 坏 | S | 灰 色 | 灰 色 | 底部、体部ロクロ、口辺欠 |
| 14 | 坏 | S | 灰 色 | 灰 色 | 口辺ロクロ、他欠 |
| 15 | 坏 | S | 灰 色 | 灰 色 | 口辺ロクロ、他欠 |
| 16 | 坏 | S | 灰 色 | 灰 色 | 口辺、体部ロクロ、付高台 |
| 17 | 坏 | S | 明 灰 | 明 灰 | 底部ロクロ、他欠 |
| 18 | 蓋 | S | 茶褐 色 | 茶褐 色 | 宝珠つまみ、体部ロクロ |
| 19 | 坏 | H | 明褐 色 | 明褐 色 | 底部、体部ロクロ、糸切り、他欠 |
| 20 | 盤 | S | 灰褐 色 | 黑褐 色 | 体部破片、自然 附着 |
| 21 | 砥石 | | | | |
| 22 | 砥石 | | | | |



1号住居跡の土器片

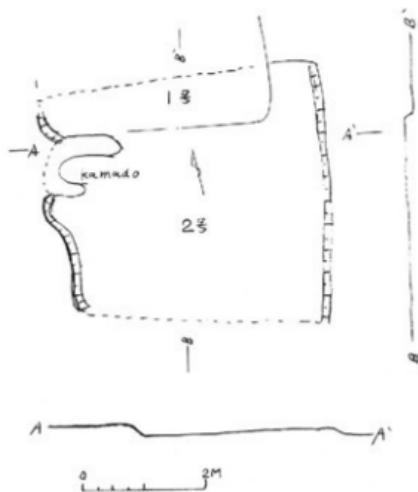
(2) 2号住居跡と出土遺物

イ 住居跡

この住居跡は、北側に1号住居跡が重複して構築されたもので、北壁は確認できない。平面は1辺4mの方形で、西壁中央にカマドを設けた竪穴式の住居跡である。

壁の立ちあがりが低く、北壁と南壁はこわされて分らない。床面は平らで堅くなっている。周溝は認められなかった。柱穴については1号住居跡との重複部分に2個あったが、1号住居跡の柱穴と思われる。カマドについては西壁北よりに黄白色砂質粘土で構築されていたが、火床はあまり焼けていなかった。

2号住居跡実測図



口造物

| No. | 器形 | 種色調 | | 特色・その他 |
|-----|----|-----|-----|-----------------------|
| | | 内側 | 外側 | |
| 1 | 坏 | H | 黒褐色 | 明褐色 底部、体部ロクロ、底部糸切り |
| 2 | 坏 | H | 明褐色 | 明褐色 底部糸切り、他欠 |
| 3 | 甕 | H | 暗褐色 | 明褐色 口辺部破片、なで調整 |
| 4 | 蓋 | S | 明灰色 | 明灰色 口辺部破片、ロクロ |
| 5 | 坏 | H | 茶褐色 | 茶褐色 口辺、体部ロクロ、破片 |



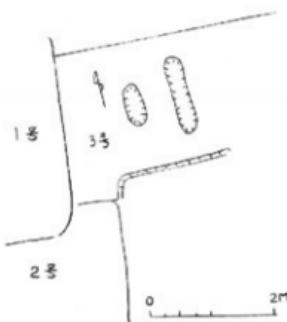
2号住居跡の土器片

(3) 3号住居跡と出土遺物

イ 住居跡

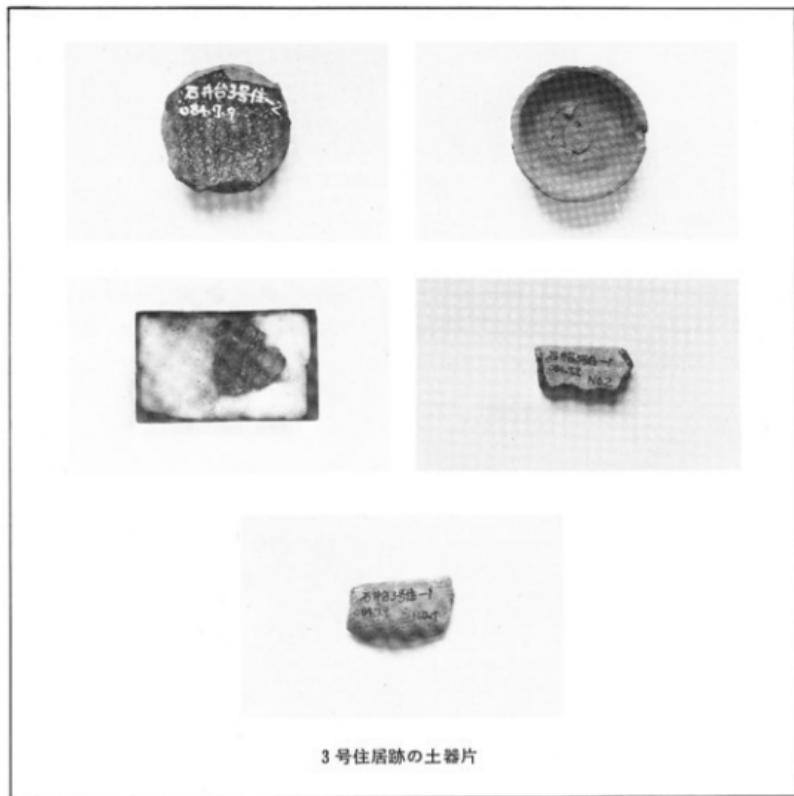
この住居跡については、側壁の範囲がよくわからない。カマドを構築するためのものと思われる白色粘土の大きなたまりが検出された。焼土は全く発見できなかった。また貼床面の一部が残存しているが、その詳細は不明であるが一応3号住居跡とした。

3号住居跡実測図



口 遺 物

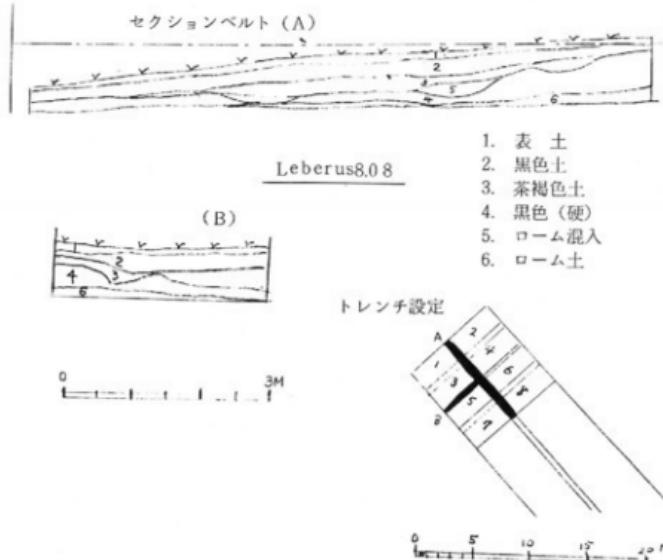
| No. | 器 形 | 種 別 | 色 調 | | 特 色・そ の 他 |
|-----|--------|--------|-----|-----|-----------------|
| | | | 内 側 | 外 側 | |
| 1 | 坏 | H | 明灰色 | 明灰色 | 口辺部破片、ヘラ整形 |
| 2 | 坏 | H | 暗褐色 | 明褐色 | 口辺部破片、ヘラ整形 |
| 3 | 坏 | S | 暗灰色 | 暗灰色 | 底部破片、付高台、自然 附着 |
| 4 | 坏 | S | 暗灰色 | 灰 色 | 口辺、体部破片、他欠 |
| 5 | 铁 | | | | 不明鉄製品、略円形、中央に小孔 |



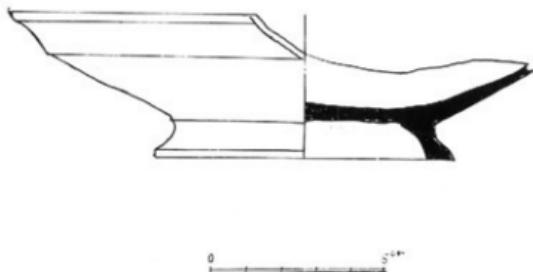
3号住居跡の土器片

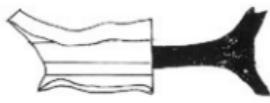
出土遺物実測図と写真

(土層実測図)



(試掘No.6 グリット出土須恵器(盤)の実測図

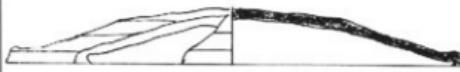




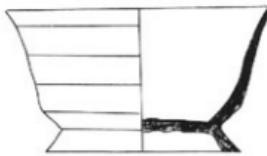
1号住 NO.3



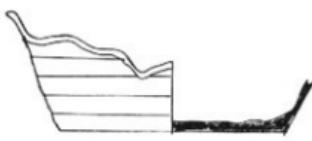
1号住 NO.18



1号住 NO.12



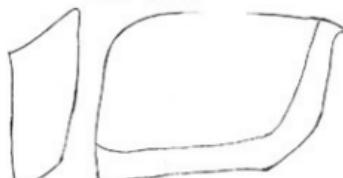
1号住 NO.16



1号住 NO.13



2号住 NO.1



鉢形器



1号住 NO.22



1号住 NO.5



1号住 NO.21





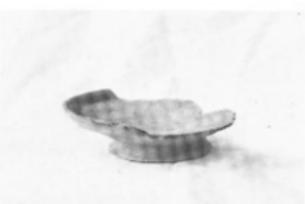
1 - 2 1
1 - 2 2



1 - 1 8



1 - 1 3



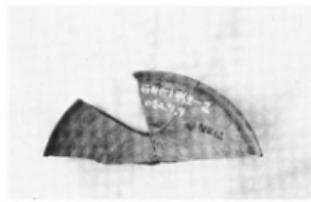
試掘時に出土した盤（須恵器）



1 - 1 6



1 - 3



1 - 1 2

おわりに

本調査は、期間が1週間以内に制約されたため、充分な成果を得ることはできなかった。堅穴住居跡3軒が検出されたが、何分調査規模が小さいため関連遺構の検出ができなかった。住居跡内の出土遺物は土師器、須恵器が主であるが、完形品ではなく口辺底部等の破片が多くかった。特異な出土品としては、小鉄製品と試掘時に検出した須恵器の盤である。盤の底部に墨書きの形跡がみられるが、文字については退色して判断できない。調査中黒土層から、繩文土器の破片が多く出土したが、その遺構については検出できなかった。

今回の調査によって検出した住居跡は、昭和47年発掘調査した石井台平安時代集落跡の関連遺跡で、笠間の古代集落構造の一端を理解することができる。

発掘調査参加者名（敬称略）

| | | |
|-------|--------------|-----------|
| 主 体 者 | 笠間市教育委員会教育長 | 宇 田 茂 |
| 調査主任 | 県文化財保護指導員 | 萩 原 義 照 |
| 調 査 員 | 市教育委員会社会教育課長 | 中 村 見 治 |
| | 〃 係長 | 荒 井 実 |
| | 〃 主事 | 長 谷 川 雄 男 |
| | 〃 主事 | 海 老 原 和 彦 |
| | 派遣社会教育主事 | 三 村 泉 |
| | 市史編さん室 係長 | 大 島 貞 二 |
| | 〃 主事 | 岡 野 次 男 |
| 協 力 員 | 県立友部高校 教諭 | 大 原 保 夫 |
| | 友部町立友部中 教諭 | 幾 浦 忠 男 |
| | 〃 " | 藤 枝 登 |
| | 友部町立友部第二小 教諭 | 小 松 崎 健 |
| | 株式会社「かまげん」 | 久 野 正 |
| | | 永 山 光 一 |
| | | 加 茂 清 |

。発掘調査にあたっては、次の先生方の御指導を頂いた。

| | |
|--------|---------|
| 県文化課係長 | 能 島 清 光 |
| 県教育財團 | 中 泽 時 宗 |
| " | 久 野 俊 康 |

石井台遺跡（笠間焼販売センター「かまげん」
建設地）発掘調査報告書

発行日 昭和 59 年 12 月 25 日

編集発行 笠間市石井717

笠間市教育委員会

教育長 宇田 茂

